

常設展示 ひらの ふざん 平野富山 — 清水が生んだ彩色木彫の名匠

於：静岡市清水文化会館マリナート ※写真撮影はご遠慮下さい。

テーマ：平野富山と池野哲仙

令和 7 年 7 月～ 10 月 ※月曜休館

今期は平野富山の師、人形師・池野哲仙^{いけのてっせん} (1880-1936) の作品を一堂に紹介します。

池野哲仙は明治 13 年新潟県に生まれ、高等小学校を卒業すると地元の彫刻家入門、のちに上京し彫刻家・画家の加納鉄哉^{かのうてっさい} (1845-1925) に弟子入りします。哲仙は、ここで彩色木彫を学んで独立、昭和 4 年には人形研究団体・白澤会^{はくたくかい}に加わり唯一の彩色木彫家として活動します。また近代日本彫刻の巨匠・平櫛田中 (1872-1979) より依頼を受け、田中作品の彩色を請け負うなど、彩色の名手として知られる存在でした。

さて、大正 15 年に尋常高等小学校卒業後、静岡市内の指物所などで働いていた富山は、関東大震災の影響で旧清水市に疎開していた哲仙の知遇を得ます。この出会いにより彫刻を志し、昭和 3 年、富山は哲仙に伴い上京して弟子となり、8 年間彩色と彫刻の基礎を学びます。その後富山は哲仙が所属した白澤会の後進団体・日本人形社に参加し、昭和 16 年に同会が発展的解消を迎えるまで出品を重ねます。

同年、平櫛田中からの助言で構造社研究所に入所して彫刻家・齋藤素巖^{さいとうそがん} (1889-1974) から西洋彫刻を学ぶようになる富山ですが、その一方で日本人形社から派生した人形研究団体・白鳳会^{はくほうかい}に長く所属し彩色木彫を手がけるなど、人形から彫刻へと作品が変遷をとげる過程として、人形作家らとの交わりは富山にとって多くを得る機会となりました。本展では、富山が手元においた池野哲仙の優品とともに、平野富山の初期の作品で師・哲仙の影響が感じられる《羽衣》(no.1) なども紹介し、哲仙と富山の影響関係を探ります。

【出品リスト】

作家名	作品名	制作年	材質	所蔵
1 平野富山	羽衣	昭和時代初期～昭和 30 年代後半	木、彩色	静岡市
2 平野富山	翁舞	昭和 52 年～平成元年頃	木、彩色	静岡市
3 池野哲仙	蘭陵王面	大正時代初期～昭和 7 年頃	木、彩色	静岡市
4 池野哲仙	蘭陵王之舞	昭和 4 年～ 7 年頃	木、彩色	静岡市
5 池野哲仙	白武悪面	大正時代初期～昭和 7 年頃	木、彩色	静岡市
6 池野哲仙	百人一衆	昭和 9 年～ 11 年頃	木、彩色	静岡市
7 平野富山	女	※原型は第 3 回新日展出品作 昭和 35 年 ※FRPは没後制作	FRP	静岡市